



東日本吹奏楽大会で演奏する、煙山小吹奏楽部

東日本学校吹奏楽大会 煙山小・初出場で金！

煙山小吹奏楽部（菅原栄央部長）は10月13日、石川県金沢市の金沢歌劇座で行われた「第19回東日本学校吹奏楽大会」に初出場を果たした。小学校の吹奏楽では全国最高峰の同大会で堂々たる演奏を見せ、初めての出場にして金賞を獲得。全国の舞台で「矢巾サウンド」を響かせ、存在感を示した。

役場で高橋町長を表敬訪問した。

菅原部長は「みんなと一緒にやってきて良かった。東北大会では、全体的に気合が入りすぎていたので、丁寧に演奏することをみんなで確認して、本番に臨んだ。今までで一番、良い演奏をすることができ、演奏を終えて、『全部やり切った』と思えた」と歓喜の瞬間を振り返った。

県、東北大会でも取り組んだカールマンの喜劇「伯爵夫人マリツア」セレクション（鈴木英史編曲）を演奏。大会を経るごとに課題を克服し、万全の状態で本番を迎えた。自信に満ちた表情で臨んだ演奏は、瞬く間に観客の心をつかんだ。終演後の拍手喝采に、児童らは大舞台での達成感をにじませた。

大会を終え、菅原部長（6年）と船越友梨副部長（同）、顧問の田中克徳教諭は10月17日、町

船越副部長は「東日本大会は、最高の大会になった。聴いている人だけではなく、自分たちも楽しむことを忘れず、演奏することができたからこそ、初めての東日本大会で金賞を受賞することができたと思う。今年だけで終わらず、後輩たちには感謝の気持ちを忘れずに頑張っていってほしい」と後輩へエールを送った。

思い、重ねた先に――

「子どもたちの成長に驚かされる」。そう語るのは、同校に赴任して6年目の吹奏楽部顧問・田中克徳教諭。部活動が行われる学校の音楽室で、大声で厳しく指導しながらも、部員と真剣に向き合い、成長を支えてきた。

「今までの積み重ねがあつてこそその出場。毎年度行っているお別れコンサートで、『東日本に出たかった』という先輩たちの思いを聞いてきた。その思いを引き継いできた子どもたち。

『絶対、今年こそ上に行くんだ』という気持ちで取り組んできた。その気持ちが、今回の結果につながったと思う」とこれまでの道のりを振り返り、目標達成の原動力となった児童らの思いに触れた。

2017、18年も東日本への出場を目指した。しかし、東北大会で金賞を取るも、出場権は得ることができず、悔しい思いを重ねてきた部員ら。特に、今の6年生は、4年生の時から、上級生の涙を目の当たりにしてきただけに、今年の大会に掛ける熱意は、ひときわ大きなもの

があつた。先輩たちの思いは確実に後輩へ受け継がれ、今回の初出場・金賞という快挙に結実した。

田中教諭は「日を追うごとに、子どもたちの練習に対する真剣さが増していき、どんどん上達していった。その年ごとに、全体的に技術が高くなってきていて、そういった面でも、今までのすべての思いが込められていると思う」と話し、成長を遂げてきた児童らをたたえた。

大会後には、田中教諭へ菅原部長から「東日本大会に出場でき、金賞を取れたのも、先生のおかげ」、舩越副部長からは「東日本大会までの練習を通して、先生から勇気をもらうことができた。今まで、ありがとうございました」と感謝の言葉が送られた。

高橋町長は、煙山小吹奏楽部の快挙に「町民にとっても受賞は誇り。後輩へ受け継ぎ、煙山小の伝統として築き上げてほしい」と話し、今後の活躍を期待した。

全国の舞台で堂々と演奏



金賞の賞状を受け取る菅原部長（左）



金賞が決まり、歓喜する児童ら

